

墨田区における産業観光の在り方

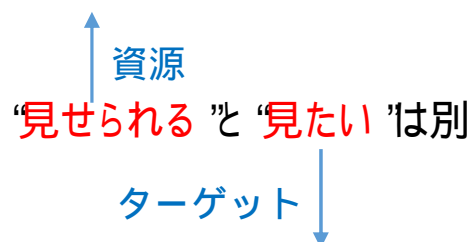


墨田区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

墨田区産業観光部

令和5年度第1回産業振興会議振り返り

- ✓ 「ものづくりのまち」として何を見てもらうのが難しい
- ✓ 墨田区のものづくりは「なんでそれが墨田区なのか」が伝わりづらい。墨田区だからこそというものが必要

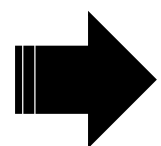


- ✓ 「ものづくりのまち」であるということが、一般の人に知られることが正しいのか
- ✓ 観光の付加価値を高める（稼ぐ力をつける）ためには、どの層を狙うのかということも大きい課題

- ◆ 観光の場合、
 - ▶ 来てもらって歩きまわることで
 - ▶ お金を落としていくことが重要

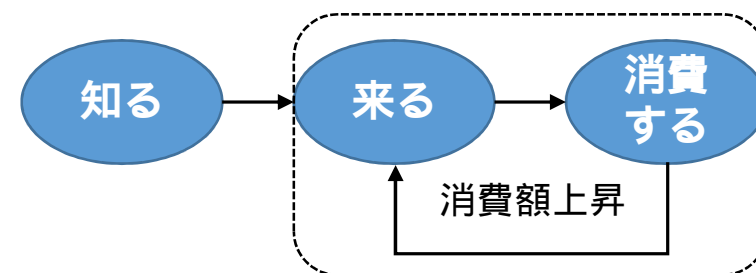
まとめ

- 産業集積は墨田区にとって重要な観光資源であるが、事業になるのかという観点で、もう一度見つめ直す必要がある
- ターゲットを考えていかなければ、「産業観光」というものが形として見えてこない



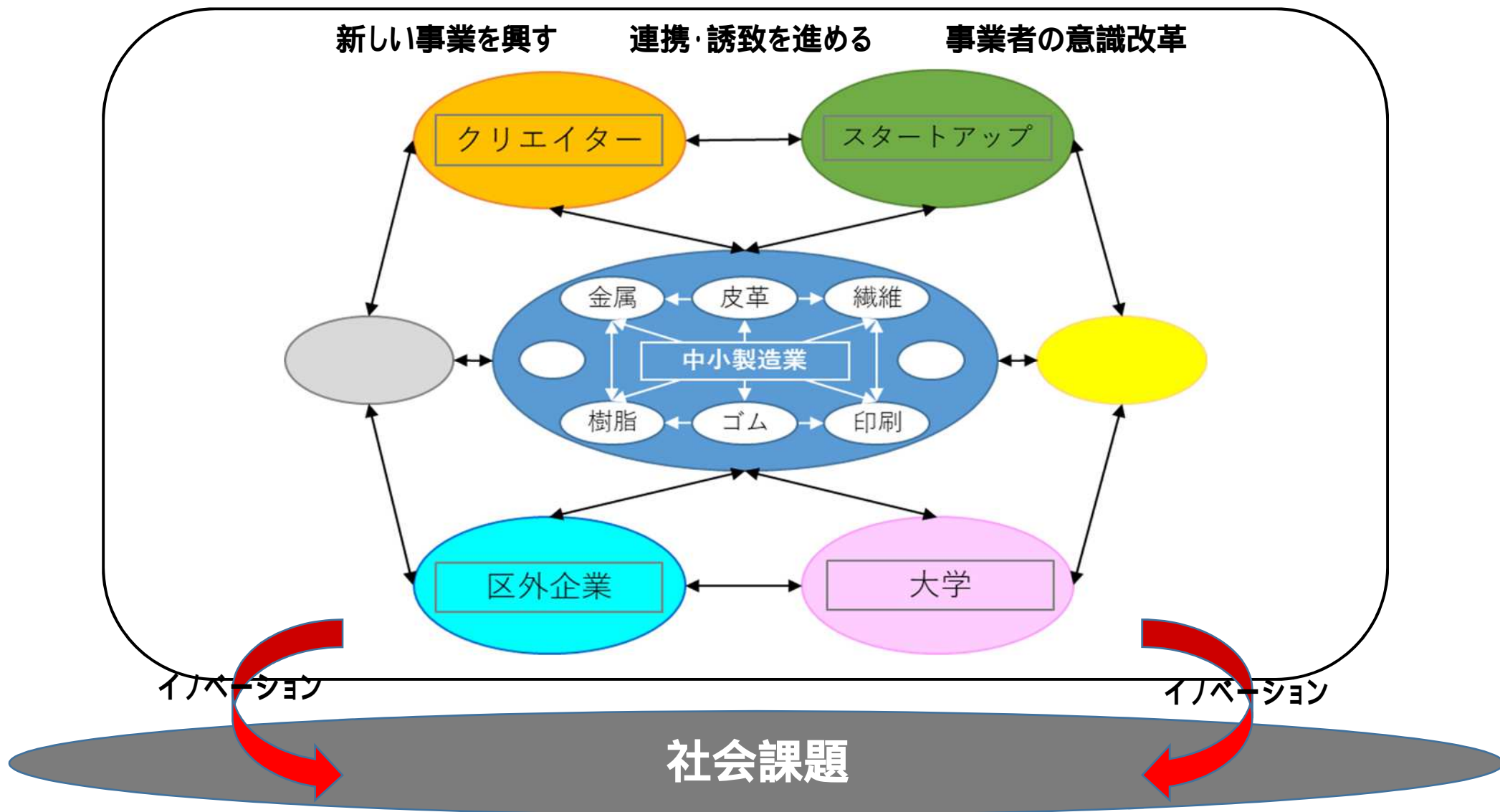
墨田区における産業観光
の在り方とは

地域の日常の観光資源化
リピーター・関係人口の獲得
新たな繋がり場の創出
観光に関わる人への裨益



墨田区におけるこれからのモノづくり（仮説）

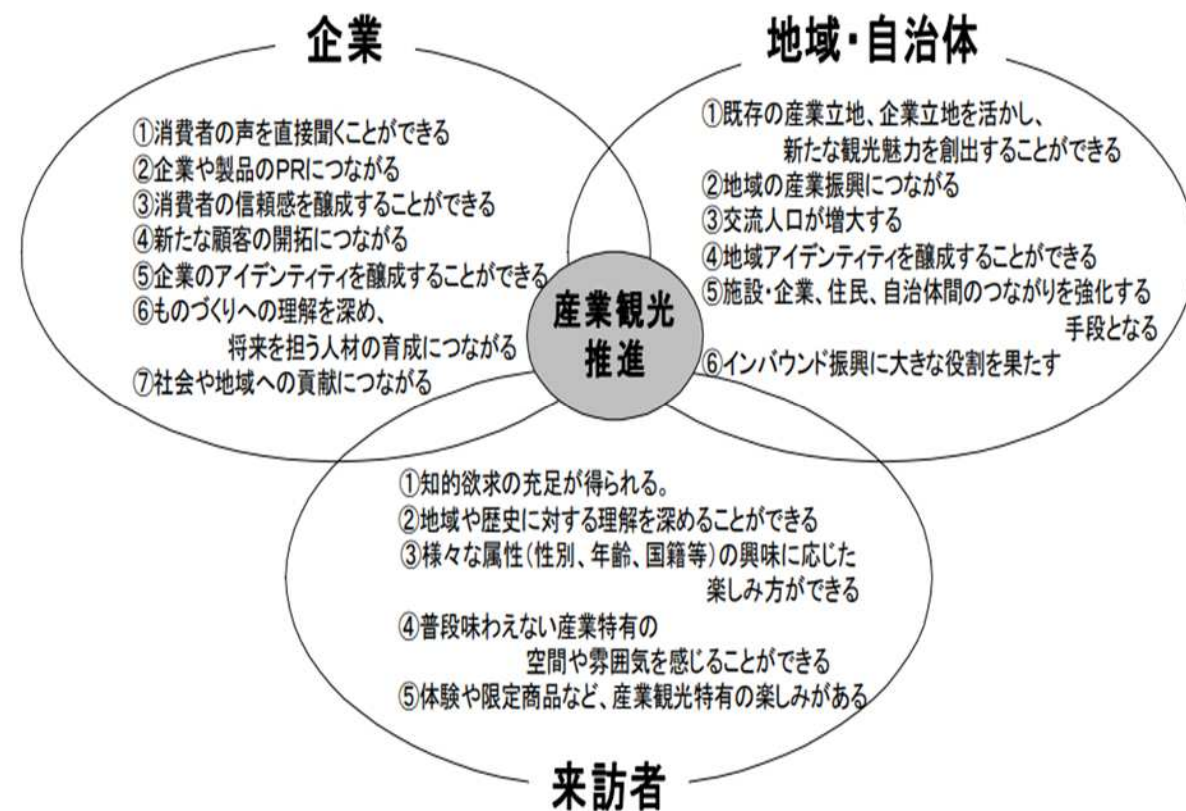
外部から呼び込んだ企業・人材・資源と区内事業者の連携によりイノベーションを創出し社会課題を解決する



産業観光の定義（2001全国産業観光サミット in 愛知・名古屋）

歴史的・文化的価値のある**産業文化財**（産業遺産）、**生産現場**（工場、工房等）及び**産業製品**を**観光資源**とし、それらを通じて**ものづくりの心にふれる**とともに、**人的交流を促進する観光活動**をいう

各主体における産業観光の意義と魅力



産業観光のタイプの分類

工場見学型

ビジネスに直結する取引先や新規顧客等への説明、自社製品のPRの場

産地振興型

幅広い来訪者を受入れ、産地としてのPRや産地ブランドの継続を目的

一般観光型

広く一般観光客を受入れ、商品や企業のPR、物販・飲食施設による観光事業を展開

ものづくり人材育成型

主に小中学生の社会科見学等を受入れ、地元や社会への貢献をめざす

リクルーティング型

就職を見据える学生を受入れ、企業への関心を高め、人材を確保する

クラフトツーリズムについて

ものづくり産業「クラフト」と体験型観光「ツーリズム」を組み合わせ、その魅力を国内外に広く発信するプロジェクト

当たり前のように存在する地域資源に磨きをかけ、そこでしかできない「体験」を通し、モノの売買だけでは得られない付加価値を付けることが狙い。

クラフトツーリズムの多角的な取組み



クラフトツーリズムの事例

一般社団法人SOE(福井県鯖江市)

分散型宿泊施設の運営

ものづくりに詳しい事業者が宿主になるため、クラフトツーリズムの魅力を観光客に伝える伝道師としての役割。

オープンファクトリー「RENEW」の運営

RENEWを通じて地域のファクトリーショップは増加したが、休日のコンテンツ不足、職人の高齢化など持続可能性を確保するための課題を確認。

各種スクールの運営

職人、デザイナー志望の方に向けたローカルで活躍できるスクールを開校。

産業観光を通じて、観光ガイドやファクトリーショップスタッフなど、職人以外の分野で新たな雇用が増加、若年層の移住者も増加傾向。

産業観光まちづくり大賞とは

観光による地域振興の手法として注目されている「産業観光（産業遺産や、現在稼働している工場・工房などを活用した観光）」を通じた観光まちづくりの実践により、地域活性化に寄与するとともに、他の地域の模範となる優れた取り組みを行っている組織・団体等を表彰する制度。平成19年度から実施しており、今年度で第16回目を迎える。有識者からなる審査委員会において審査する。

産業観光まちづくり大賞 事例 第12回「銀賞」

従来の産業資源を活かした取組（富士吉田市）

概要

- 富士吉田市は、1000年以上続く織物産地であり、周辺市町村とともに繊維（織物）産業が数多く残る日本有数の地域である。
- 絹織物の産地として一時代を築いたが、廉価な輸入品の流通とともに取引も減少し、近年は全盛期から大きく売上げや賑わいが落ち込んでいる。
- 織物業に関わる2世3世の後継者たちが主体となり、富士吉田市ならではの「織物の産地と観光資源」を紹介するプロジェクト及びPRサイト「ハタオリマチのハタ印」が平成28年に発足。

取組内容

- 職人の姿、産地の歴史から最新情報、観光スポット等、「織物産業×観光」のあらゆる情報をPRサイトに集約。
- ハタオリ体験や染物体験、ハタオリに関する音楽イベントなどを盛り込んだ「ハタオリマチフェスティバル」を開催。
- 「オープンファクトリー」として織物工場を開放し、工場見学や商品販売といった新たな取組を展開している。
市内では「まち歩き」や御朱印帳づくりなどの体験型観光の増加、来訪者と地域住民や商店街との交流発生
- 地元宿泊施設との連携や、ワークショップの開催、デザイナーなどを対象にしたBtoB向けのバスツアーなど、「織物と観光のまち」としてさらに輝くことができるように、織物と観光を織り交ぜた様々な取組を展開。



産業観光まちづくり大賞 事例 第15回「金賞」

産業観光拠点を端緒とした産業再生への多面的取組
(岐阜県・NPO法人ORGAN)

概要

- 日本一の生産量を誇る和傘の販売を手掛けるも、需要の激減、職人の高齢化・不足、材料供給の断絶、危機的な状況に陥っていた。
- 岐阜が誇る伝統工芸品としての価値と重要性をより広く伝えると共に、業界の課題を解決していく拠点として、築100年以上の町家を改装し、岐阜和傘を核とした産業観光拠点『長良川てしごと町家CASA』を平成30年から整備。
- 個人観光客が高単価工芸品として和傘を購入する、新市場の形成をめざす。



取組内容

- 個人向けの岐阜和傘の販売と普及・新市場形成
- 高付加価値・高単価商品の開発と販売
- 買える・学べる・体験できる伝統産業観光施設として観光商品造成・販売
- 自治体に対する政策提言と支援政策整備の支援
当法人の提言により、岐阜県では人材育成支援と、加工機械のアーカイブ化、販路開拓などが予算化、岐阜市ではガバメントクラウドファンディングの整備が行われ、ふるさと納税で職人育成支援ができる仕組みが作られた。
- 職人人材育成の仕組みづくりとファンドレイジング支援（寄附金集め）
- 振興主体としての一般社団法人岐阜和傘協会の設立を支援
- 歌舞伎界、音楽業界他と連携した発信と寄附集め
- 若手職人に対する工房空間の提供と設置
観光見学も可能な職人見習いの『傘骨』工房をCASA内に設置。
- 経済産業省・伝統的工芸品指定に向けた伴走支援